

■令和6年度第2回会津美里町高田地域まちなか賑わい創出協議会 開催記録

日 時:令和6年12月26日(木)18時30分～20時45分

場 所:会津美里町役場 2階 大会議室

出席者:11名／17名

事務局:4名 コンサルタント:2名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 報告事項

10月～11月に実施した3回の町民ワークショップと先進地視察について、事務局より報告した。

4. 協議事項

高田地域まちなか賑わい創出基本計画の方向性と、実行部隊となる「エリアプラットフォーム」について、事務局より説明した後、内容について協議した。

○委員長

先日のワークショップでもあったと思うが、町の計画策定にあたり、実施計画として作成するよりも、実施時期が幅広い基本計画としたほうが良いと意見が出た。

私としても、民間が策定する未来ビジョンと柔軟に連動できる基本計画とすべきと考えているが、委員の意見としてはどうか。

○A 委員

今後、エリアプラットフォームを立ち上げ、民間の計画である未来ビジョンを策定するにも、実施時期が柔軟である基本計画としたほうが良いと考えている。

○委員長

それでは、事務局から提案のあった計画（案）について、意見をいただきたい。

○A 委員

旧公民館跡地と駅は扱い方が寂しい印象。

○事務局

駅については当初は含めていなかったが、高校生の居場所やトイレの課題があるので、旧公民館跡地のページに追記した。

柳津駅では民間が駅舎を活用していることを踏まえて、本町でも駅舎を活用する民間のプレイヤーが出てくることを待つという整理である。

○A 委員

旧公民館跡地はある程度の建物を建てる可能性もあるとのニュアンスを感じていたが、このご時世から、トレーラーハウスのような仮設のものをコミュニティスペースとして活用するという認識であっているか。

○事務局

避難所としてトレーラーハウスに補助金を出すという国の施策があるので活用したい。日常はコミュニティスペースとして利用し、災害時にも活用できるものを目指したい。

○A 委員

歴史と文化を継承するという役割として、天海の像のところについては、展示スペースも考えているのか。

○事務局

今後の議論でもあるかと思うが、天海色を出して、アイデンティティを感じてもらえる場所にできないかと考えている。例えば、国宝である一字蓮台法華経のレプリカの設置や、蓮のデザインなどで誘客を図れればと考えている。地域の子供たちがレプリカを見ることで、国宝があることを認識してもらい、会津美里町に誇りを持ってもらいたい。

○C 委員

旧あやめの湯については、結果的に利活用が難しいとの結果で残念。あやめ荘も古いので、結局のところ改修しても使えるかどうか。現状では一体となっている電気機器を切って、解体した方が良いのではないかな。更地にして駐車場とするのがいいのではないかな。

秋のマルシェの時、伊佐須美神社はテレビ番組の影響で混雑した。コスプレのイベントもあった。参道の前が車で渋滞し、駐車場に3-4時間並んでいる車もいた。このような状況は土日に1か月間続いた。その際、ドライバーに声をかけて、別の駐車場を案内した。河川敷の駐車場は止められても、空いているスペースを探すのが大変で不便なため、他の駐車場を案内してみた。ただ、現状では駐車場が点在しているので、今後このようなことが発生した場合は、対応が難しいと思う。伊佐須美神社周辺を重点エリアにするならば、駐車場も一緒に整備した方がよい。

○事務局

案内看板も整備できればと考えている。

○C 委員

店舗出店に関して、現状では参道からあやめ苑側はお店が建てられないと聞いた。物産館や森の駅を誘致するならばどこになるのか。離れたところなのか、門前町側なのか。

○事務局

伊佐須美神社周辺は、都市計画上、住宅地の位置づけである。これを見直して、商業施設等が出店できる体制づくりを計画に盛り込みたい。

なお、あやめ苑は建設水道課が神社から借りており、都市計画上は低層住宅地となっている。高天原、水道施設の跡地なども近隣商業地に指定するなどの方法も考えられる。今後実証実験をしながら検討していきたい。

○C 委員

高校生は、暗いなか裏道歩いたり、寒いなか電車を待っていたりする。今はローソンに集まっているが、学校の近くに待っている場所あればいいと思う。

○C 委員

少しテレビ番組で紹介されただけで、あれだけの人が来たことから、伊佐須美神社のポテンシャルの高さを感じる。

駐車場については、案内サインの整備を計画に入れば良いのではないかな。

○D 委員

マルシェも良いが、まずは人づくりを優先してほしい。計画では、住民と観光客は両方とも対象とするのか。

○事務局

住民に重きを置きつつ、両方を対象としたい。

○D 委員

選択と集中でエリアを伊佐須美神社周辺に絞るのもいいかもしれないが、エリアを絞らずにできることをやって、町全体でやっていった方が、町全体で賑わうと思う。

六斎市は喜多方でもやっている所以で差別化が必要。

旧あやめの湯について、民間に売却という意見がワークショップであったが、例えば、旧あやめの湯だけ売った場合、あやめ荘と分割するのか。

○事務局

部分的に売ることではない。

○D 委員

マルシェは一過性のため、継続的な賑わいにつながるのか疑問である。むしろ、プレイヤーの育成をしてほしいので、チャレンジショップを重視した方がよいと思う。

美里蔵には現在4店舗あるが、ここに観光インフォメーションセンターがあるのはもったいないので、伊佐須美神社の近くに移転した方がよい。代わりに美里蔵をチャレンジショップとして活用すれば良いのではないか。また、福祉関係の店は役場の中の方が良いのではないか。役場職員や来庁者が買いやすい。

まちなかの事業者の事業継承を早急に対応してほしい。

ワークショップに参加した神社関係者が話していたが、高天原は神聖な場所なので活用は難しいとのこと。また、大鳥居の前にキッチンカーを定期的に呼ぶことも実験的にやりたいと聞いている。2030年に向けて福林亭のリニューアルも考えていて、小林開花堂と話し始めているようだ。

トレーラーハウスの導入は防災面から良いと思う。他の自治体でも防災公園というのがある。まちなかは役場から遠い方もいるので、避難場所として活用できるトレーラーハウスがよい。遊べる場所にするのも良いと思う。

駅周辺はぜひ整備してほしい。現状では暗くて怖い。駐車場の奥の倉庫を町で買って改修すれば、誰かプレイヤーがお店をできるのではないか。空き家やタイムシェアなど、使える場所は結構たくさんある。駅周辺は早く対応した方がよい。

駅からまちなかまでの足の問題はあるが、例えば、本郷のマルシェでも体験をしていた電動バイクやトゥクトゥクはいいと思った。

○G 委員

思いついたままの意見で恐縮だが、述べさせていただく。

トレーラーハウスを予定している旧公民館跡地は小学校の近くだが、大型車が出入りすることは安全面で問題ないか。

私は、佐布川に住んでるが、避難場所は西陵高校で遠い。トレーラーハウスは佐布川地区や例えば、旭地区など遠くの山間地にも出張できるのか、お聞きしたい。

高田駅を活用し観光でどれくらいの方が来ているのか、統計はあるのか。昔ユースホテルに来る人が使っていたが、今はほとんどいないという印象である。観光客の玄関口といっているのか、整備する必要があるのか、疑問である。

マルシェについて今まではゲリラ的な開催との印象である。出品に誘われたことはあったが、急に言われても農家はすぐに出せない。

人づくりは重要。農家は商売下手のため、お店をやると全部あげてしまい、結局疲れてやりたくなる。そういった面の人づくりはやった方が良い。

旧あやめの湯は、周辺の住宅も一緒に無くなるのか。解体した後の展望はあるのか。お祭りの時に着替えるのはこしかないため助かっている。そういった点も考えてほしい。

○事務局

トレーラーハウスについて山間部等で必要な場合は、移動して使うことができるもの考えている。また、旧公民館跡地に大型車が出入りすることの安全面への懸念であるが、大通り側をロータリーにすることを想定しており、裏の小学校の方には回遊しないように考えている。

なお、あやめ荘や周辺住宅は現段階ではなくなることはないと聞いている。

○G 委員

石川県に行ってみたが、1年たってもひどい状況だった。災害対策はちゃんとやった方が良い。会津美里町は防災の個別計画がまだできていないので、力を入れてほしい。

○B 委員

観光客にはまちなかを歩いてほしい。車ではなく、動線を作ってあげて、歩いてもらう必要がある。チャレンジショップ等を整備し、お金を落とす流れが必要である。

駅周辺は寂しいのでぜひ整備してほしい。町おこしとしてポーカーで子どもと大人が交流する自治体があるらしい。高校生がゲームして、高齢者にスマホを教えたり、子どもに勉強を教えたり、世代を超えて交流できる施設があると良い。ここでの交流がまちづくりにつながる。トイレとあったかい飲み物があり、高校生が電車を待ったり、小学生が遊びに来たりする、多目的な場所ができると良い。

○J 委員

決定ではないが、神社はすでに賑わいづくりの策を色々と考えている。将来、物産館の整備も考えている。そのような動きを邪魔しないように、住宅専用区域から早く外してほしい。神社側と調整してほしい。

○委員長

神社としては、前の社殿再建計画の際に、水道局跡に物産館を建てる計画もあったが、再建計画と共に一度無くなった経緯がある。当時の総代も残っているので、社殿を作るならば、物産館も整備した方がよいのではとのことで、構想している。もし整備するとすれば、お金は集まるだろう。そのために規制緩和をしてほしいという趣旨かと思う。

○事務局

そういった点も視野に入れながら、町で検討していきたい。

○L 委員

民間と行政の役割分担が重要。行政が全てやる時代はもう終わった。民間のプレイヤーを育てて、それを行政が支援するという基本スタンスでお願いしたい。

○E 委員

総合計画や都市マスタープランとの整合からすると、駅から伊佐須美神社の間は、歩いて暮らせる、車を使わないで回遊するといった視点が必要で、全国的にもそのような整備が進められている。車は通りやすいが、歩行者が通りやすい道になっているだろうか。高校生が駅に歩いて行くとき、歩きやすい場所か。活性化というとお金の話になりがちだが、全国的に歩行者の環境は課題になっている。

あわせて、中高生が普段どういう生活しているか調査してはどうか。それにより、どのような整備が必要か分かるのではないか。

観光客が電車を使っているかという意見があったが、観光で来ている人がどのように回遊しているか、調査したらよいと思う。

○N 委員

トレーラーハウスにぴんときていない。災害時に移動するということは、そこでは店は営業できないということか。店をやる立場からすると、自分の店をもっていかれるとどうしていいか分からない。

これまでのアンケートやワークショップでは、子育てや子どもの話が必ず出てきた。旧公民館跡地にトレーラーハウスが入ると、子どもが遊ぶスペースが無くなるのではないか。会津美里町は色々やるのはいいけど、中途半端になりがちという印象がある。旧公民館跡地は結構狭いので、トレーラーハウスを何台も設置できないのではないか。駐車場も必要であり、中途半端になる気がする。やるなら、もうちょっとお金かける等、工夫が必要である。

私は2回目のワークショップに参加し、伊佐須美神社の神主さんも参加していた。おしゃれなカフェ等含め神社は何でも考えている。同じこと考えているので、別々に話すのがもったいない。商工会があった場所を活用したいという話もその時に聞いた。おしゃれなかき氷という意見が資料にあるが、それもその時の意見だった。

千本桜は有名だが、実は全国各地にある。「千本桜」というボーカロイドの人気曲があるが、ボーカロイドやVチューバーのコンサートはスクリーンさえあれば開催できるので、そのようなコンサートを高田でも開催し、千本桜を歌ってもらうのはどうだろうか。ボカロコンサートに行ったことがあるが、画面だけで生の人が歌わないにもかかわらず、かなり熱狂していた。

○委員長

鶴ヶ城のコスプレイベント運営に関わったことがある。結構やりたい人がいる。有名なコスプレイヤーが発信すると、全国から集まる。高田のマルシェの時は70人も参加した。コスプレイヤーによると、本物がある場所でコスプレ撮影ができることに価値があるらしい。伊佐須美神社側も鶴ヶ城と同様に、開催に理解があったのも成功の理由。

○N 委員

結婚式の前撮りの時は伊佐須美神社では自由に撮影できた。ニッチなこのような企画もおもしろいと思った。

○D 委員

河川敷は県の所管か。使用する場合は県に許可をとればよいのか。

○事務局

使用許可があれば使用できる。使用料は発生する。

○Q 委員

選択と集中は必要。JRの乗降者数は300人程度ととても少ない。高校生は困っているかもしれないが、限られた予算をどう使うかよく検討した方がよい。

マルシェは一過性という意見に賛同する。儲けたい人がやれば良い。マルシェは商売のチャンスを得るためのきっかけづくりだと思う。

伊佐須美神社の混雑は1か月続いたが、一度雪が降ったら、ぱたっとこなくなった。急な混雑に対応しようにも、駐車場のガードマンも人手不足で手配するのも大変な状況。期せずしてオーバーツーリズムを体験したが、冬の間に対策を考える必要がある。

○委員長

選択と集中に関して、重点エリア以外は賑わいづくりをしないという意味ではない。ワークショップでも意見があったが、伊佐須美神社を中心に、賑わいのエリアづくりを進めるものがよいと思っている。

エリアプラットフォームについては、しっかりと組織を作り、人員を配置する必要がある。

○A 委員

昨年度の検討では賑わいの対象を「内向き」とした。つまり、住んでいる私たちが幸せであることが最優先。その場合、暮らしに近いところにある旧公民館跡地はもっと重要性が高いのではないかな。

○G 委員

エリアプラットフォームの補助金をなぜ持ってきたのか。

○事務局

官民連携による人づくりができるため応募した。

○G 委員

活用することは素晴らしいが、変化を望まない町民性を感じており、チャレンジすることに抵抗がある人が多く、難しさを感じる。

高校生の居場所は早急に必要である。暗い路地もあり、不安である。西陵高校の話ではローソンしか居場所がなく、雪が降ると歩道が怖いとのこと。

賑わいづくりはまずは町民向けだが、観光客向けも必要。

本郷庁舎で、子どもたちの勉強を見る活動をしているグループがあり、とても参考になる。教わった子どもが高校生になり、ボランティアで下の子どもたちに教えるという循環が生まれている。そういう流れが高田にも必要ではないか。

○委員長

エリアプラットフォームは、この計画を進めて行く中心となる団体。民間、行政、神社など関係者を巻き込みながら進めていくものである。

プレイヤーはこの町には実はたくさんいるが、それぞれで動いており、連携がとれていないのが課題。

エリアプラットフォームはそれらのハブのような場で、色んな人に動いてもらうイメージ。そのようなプラットフォームができると良い。

内向きも外向きも一体で考えられる計画にできたら良いと思う。

重点エリアにリーソースを集中したとしても、住民も来訪者もみんなが利用できるようにすれば良いのではないか。力を結集して、一点突破できたら面白いのではないか。

○A 委員

A3の図面を見ると、伊佐須美神社エリアと旧あやめの湯エリアが回遊の動線で結ばれている。あやめ荘と、川、赤い橋、河川敷の緑で、水と緑の回遊ができたなら素敵だと思った。子どもたちも川沿いでもっと遊べたら良い。ワークショップでは、川と神社の森の緑をもっと活用しようという話もあった。

森や川で遊ぶのを指導する人材も必要。そういったことは、ハコモノに比べてお金をかけずにできるのではないか。

○委員長

宮川いこいの河畔公園を含む、伊佐須美神社周辺から横町門前町の回遊を考えていくべきと思った。

○A 委員

人は疲れると水を見たくなる。

○B 委員

かつて伊佐須美神社の近くにひょうたんプールがあった。冷たくて綺麗な水だった。綺麗な水をいかしたい。

○委員長

川や水辺も含めると、このエリアでは色んなことができる。

5 その他

今後の予定について、事務局より説明した。

閉会

副委員長より閉会のことば。

以上